

【便の色】

はじめに

年を明けてから挨拶してない方もいらっしゃるかもしれませんが、今年も宜しくお願い致します。さて、今回は便の話をしてと思います。便を観察することは、牛を診る上でとても大切な指標となると思います！よく、弊社の社長は検診を行うときは、何よりも便に直接触れられることが特権であるとよくおっしゃっています。

下痢かどうかは体調の良しあしを把握する上でもちろん大切です。親牛では群全体で便がゆるくないか、未消化のものが多く混ざっていないか等もみてると思いますが、今回は、**便の色**について、そして特に**子牛**について考えていきたいと思ます！

そもそも便の色って？

便の色のもと、肝臓で作られ、そこから腸へ排泄される「胆汁」という消化液です。胆汁は緑色をしていますが、腸を流れているうちに、腸内細菌によって色が変わり、最終的に私たちがよくみる黄土色(山吹色、黄褐色等)の便の色になるのです。

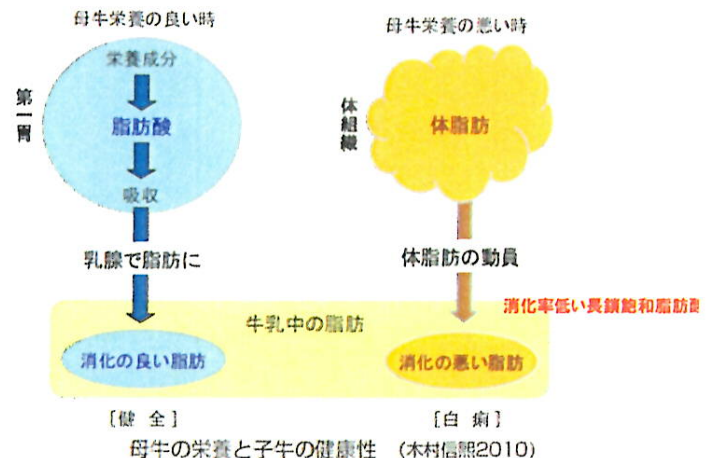
胆汁とは、脂肪の消化を助ける働きをもつ液体であり、そのままでは水に溶けない脂肪を、水に溶けるようにします。

白痢

たまに子牛の診療で便をみると白い便をしているときがあります。なぜでしょうか？これは原因として大きく2パターン考えられます。

- ① ロタウイルス、コロナウイルス、大腸菌による**感染性下痢**のとき、胆汁がうまくつくられない
- ② 母牛の栄養状態が悪い(**母乳性白痢**)

→(母牛の生乳を哺乳に使用している農場において、)分娩前後の飼料急変やエネルギー不足によって、体脂肪が動員されて、血液中の脂肪が高くなり、よって、乳脂肪も高くなります(いわゆるケトシスの状態)。消化の悪い脂肪が多く含まれるものを哺乳すると、子牛は脂肪を消化できないまま、便にできてしまうということです(消化不良性の下痢)。母牛のコンディションと、子牛の白痢発生には関連があるという報告もあるようです。



血便・黒色便

・**血便**：いわゆる腸炎で、肛門に近い消化管(小腸、大腸)において出血しているとき

・**黒色便**：牛では主に親牛における**四胃潰瘍**等の四胃疾患で、上部消化管(胃、十二指腸)において出血しているとき

子牛において血便というと**コクシジウム**(離乳後～育成)や**サルモネラ**(約4週齢以内)が一番頭に思い浮かぶと思いますが、**ロタウイルス**と**クリプトスポリジウム**の混合感染のときの下痢等で、腸粘膜の損傷が激しいと、血便になることが多いように感じます。血便というだけで、確定診断はできません。心配であれば、往診を頼み、検査を行いましょう！

さいごに

便のことを話してきましたが、子牛の診療頻度や疾病の傾向は農場ごとに偏っていると思います。子牛における厄介な病気は主に下痢と肺炎ですね。肺炎は環境の影響も大きいですが、下痢においては母牛の栄養状態(特に初乳)の影響が大きいと思います。ということは、農場全体の問題になるということです。子牛だけのことのようにですが、広い視野で何が問題なのか一緒に解決していきましょう。

小方可奈江



Total Herd Management Service